PART3 置き字

三 **置き字**…意味はあるがそれ自体は読まない文字。書き下し文では書かない。

① **於・于・乎**＝前置詞の働き。

「時・場所・比較・受身・目的・起点・対象」などを表し、動詞・形容詞の後に置く。**直後の送り仮名は「ヲ・ニ・ト・ヨリ（モ）」**。

② **而**＝接続の働き。「順接・逆接」を表す。

文中…**読まない。直前に読む字に送り仮名**を送る。

「順接」＝テ・シテ・ニシテ・デ　（例）召（シテ）二蘧（きよ）伯（はく）玉（ぎよく）（ヲ）一而貴（ブ）レ之（ヲ）。

「逆接」＝モ・ドモ・ニ　（例）蘧伯玉賢（ナルモ）而不レ用（ヒラレ）。

文頭…**読む**（＝置き字ではない）。

「順接」＝しかうシテ・しかシテ

「逆接」＝しかルニ・しかルヲ・しかモ・しかレドモ

③ **矣・焉**＝**強意**の働き。**文末**にある。語気詞。

（例）我失（ヘリ）矣。

④ 兮＝整調の働き。（詩の中でしか使わない）

（例）今遂（ニ）逝（ケリ）兮。

問五　「語夫人其実焉」の返り点のつけ方とその読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

① 語㆓夫人其実㆒焉　夫人と其の実を語る
② 語㆓夫人㆒其実焉　夫人に語ること其れ実ならんや
③ 語㆓夫人其実㆒焉　夫人に其の実を語る
④ 語㆓夫人㆒其実焉　夫人に語りて其れ実ならしむ
⑤ 語㆓夫人㆒其実焉　夫人に語れば其れ実なり

問六　次の文章に、返り点をつけよ。

吾已作薬酒待之矣。

注　薬酒…毒薬を入れた酒。
之(これ)…ここでは「夫」のこと。

四 **返読文字**…語順に関係なく**下から返ってくる**ことが決まっている文字。（左記のA・Bなど）

A「助動詞」…助動詞は文末に置く断定「也」を除いて、用言（主に動詞）の上に置かれ、その用言から返って読む。

① **不**・弗＝ず（打消）　② **使**・令・遣・教・俾＝しム（使役）
③ 為＝たリ（断定）　④ **可**＝ベシ（可能・当然）
⑤ **見**・被・為・所＝る・らル（受身）　⑥ **如**・若＝ごとシ（比況）
＊「ム・タリ（完了）・リ」などは漢字がなく、送り仮名として示す。

B「それ以外」

① 有（あリ）　② 無（なシ）　③ 勿・毋・莫（なカレ）
④ 多（おほシ）　⑤ 少（すくなシ）　⑥ 易（やすシ）
⑦ 難（かたシ）　⑧ 毎（ごとニ）　⑨ 所（ところ）
⑩ 為（ノためニ）　⑪ 所以（ゆゑん）　⑫ 不レ能（あたハず）
⑬ 雖（トいへどモ）　⑭ 自・由・従（より）
⑮ 与（と）　⑯ 与（よリ（ハ））

問七　次の文は「甸人をして麦を献ぜしむ。」と読む。これに従って、返り点と送り仮名を書きなさい。

使 甸 人 献 麦 。

注　甸人…公田の耕作を司る役人。

問八　次の文に訓点（送り仮名と返り点）を施し、記せ。

雪 珠 如 豆 打 茅 茨 。

注　雪珠（せつじゅ）…あられ、みぞれ。
　　茅茨（ぼうし）…かやぶきの屋根。

五　「也」の読み方

文末＝上に**疑問・反語**を表す副詞があるかないかを確認。

①　**疑問・反語**〜也。＝「**や**」「**か**」と読んで「**疑問・反語**」の意味を表す。

②　~~疑問・反語~~〜也。＝「**なり**」と読んで「**断定**」の意味を表す。

文中＝「**や**」と読んで「提示・強調」の意味を表す。

③　〜也、〜（読まないときもある）

④　〜也〜（ほとんど読まない）

〔例題四〕 次の傍線部ａ・ｂの読みを、それぞれ記せ。

蓋（けだシ）是（こノ）国ａ也、地険ニシテ而民多クレ知、其ノ主ハ俗主ｂ也。

ａ＝

ｂ＝

問九 「始貨二爾魚一約二三十銭一也。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　始め爾（なんぢ）に魚を貨（う）るも三十銭に約せんや。
イ　始め爾の魚を貨るに三十銭を約せんや。
ウ　始め爾に魚を貨るに三十銭を約するなり。
エ　始め爾に魚を貨らしむるに三十銭を約するか。
オ　始め爾の魚を貨らしむるも三十銭に約するなり。

第1講　PART3　確認問題

① 他と異なる働きを持つ置き字として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 於　イ 矣　ウ 于　エ 乎

② 「虞<u>兮</u>虞<u>兮</u>奈レ若何」の傍線部の置き字の働きとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 強意　イ 接続　ウ 整調　エ 前置詞

③ 「吾十有五而志于学。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 吾十有五よりも学にして志す。
イ 吾十有五であれども学において志す。
ウ 吾十有五而して学を志す。
エ 吾十有五にして学に志す。

④「而後従之。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　後にして之に従ふ。
イ　而して後に之に従ふ。
ウ　而して後に従ふや。
エ　後れども之に従ふ。

⑤「敏二於事一而慎二於言一、…」を返り点に従って書き下したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　事に敏にして言に慎み、…
イ　事に於いて敏く言ふに於いて慎み、…
ウ　事よりも敏く而して言よりも慎み、…
エ　事に敏なれば言に慎にして、…

第１講　PART3　解答

〔例題四〕　a　や　　b　なり

問五　③

問六　吾已作二薬酒一待レ之矣。

問七　使ム二旬人ヲシテ献ゼレ麦ヲ。

問八　雪珠如クレ豆ノ打ツ二茅茨ヲ一。

問九　ウ

第1講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 置き字とは、意味はあるがそれ自体は読まない文字であり、書き下し文では書かない、というルールがある。「於・于・乎」は前置詞の働きをし、「時・場所・比較・受身・目的・起点・対象」などを表しており、直後の送り仮名は「ヲ・ニ・ト・ヨリ（モ）」となる。「矣」は強意の働きをし、文末に置かれる置き字である。

② 「兮」は詩の中でのみ用いられる、整調の働きを持つ置き字である。例文は詩の一部であり、書き下し文は「虞（ぐ）や虞や若（なんぢ）を奈何（いかん）せん」となる。

③ 「而」・「于」の二つの置き字が使用されている。「而」は接続の働きをする置き字であり、直前に読む字に送り仮名を送る、というルールがある。順接の場合「モ・シテ・ニシテ・デ」、逆接の場合「モ・ドモ・ニ」と送る。「于」は前置詞なので直後の字に「ヲ・ニ・ト・ヨリ・（モ）」と送り仮名を送る。

④ 「而」は文頭に来る場合、置き字ではない使い方をし、書き下し文にする際にも読む。順接の場合「而（しかう）シテ・而（しか）シテ」、逆接の場合「而（しか）ルニ・而（しか）ルヲ・而（しか）モ・而（しか）レドモ」と読む。

⑤ 「於」・「而」の二つの置き字が使用されている。「而」は文中での使用なので、置き字であり読まないため、ウは誤り。イは返り点の語順になっていないので誤り。また、残るはアとエだが、「而」は置き字の場合、直前に読む字に「ニシテ」と送る。よって、アが正解。

〔解答〕

①　イ

②　ウ

③　エ

④　イ

⑤　ア